



発行責任者
企画 池田克彦
編集人 渡邊剛至

高松・塩江ふるさと会事務局

〒252-0101
神奈川県相模原市緑区町屋 3-14-13
電話・FAX 042-782-8630
電子メール CYR02356@nifty.ne.jp
ホームページ <http://www.高松・塩江ふるさと会.com>

ふるさと会よりご報告

会長（高松市観光大使）
池田 克彦



24年度で奇しくも会報「なにしょんな」
24号をむかえました。昨年は機関誌「かた
かたどうし」第4号を会創立20周年記念で発

刊させて頂きました。さて早速ですが、香川県・高松市等より
関係情報と会活動のご報告を致します。

①県24年度当初予算の発表。予算総額4,343億7,600万円（前
年度1.6%UP）安心できる香川の活力創出予算として位置付け。
地震・津波被害対策調査事業、津波・高潮対策事業。交通死亡
事故全国ワースト1位からの脱却、糖尿病ワースト1位の脱出。
香川県産業成長戦略（仮称）策定事業、次世代ものづくり産業
育成事業、農業の6次産業化促進事業。うどん県それだけじゃな
い香川県プロジェクト、瀬戸内国際芸術祭推進事業「せとうち
田園都市の創造の実現」があります。②県人会・高松大学から、
うどん県を歩く「てくてくさぬき」まち歩き観光県の冊子「て
くてく通信：春夏秋冬に発刊」高松塩江の春を食す・ちょびつと
昔道（ガソリンカーの道とトンネルを歩く）紹介（まちかど漫
遊帳）。東京さぬき倶楽部で、さぬきふれあいコンサートが香
川県出身者による5月7月9月11月に開催。11月5日（月）
東京會館で東京香川県人会開催。高松大学生涯学習教育センタ
ー新規講座開講、心に響く話し方と古典・風土にみる香川学（教
授津森明氏）。③12月市議会定例会が開催、老朽化塩江町バ
ス車庫解体撤去予算の措置。一般質問で地元佐藤市議員が市
有林で松茸林再生取組の考えを求め、市から、松茸林再生に向
け市有林利用を働きかける旨答弁。④4月1日付高松市組織が
変更併せ人事異動。創造都市推進局に文化・観光・スポーツ部
に観光交流課。宮武寛局長、松本欣也局次長、秋山浩一文化・
観光・スポーツ部長、長井一喜観光交流課長。⑤24年度市当
初予算発表。一般会計1,468億8,000万円（前年度2.1%減）特
別会計967億4,340万円・企業会計407億6,229億円。重点取組事
業12項目・106事業。合併特例債・過疎債活用した地域活性化
事業で塩江地区の小学校・中学校建設事業の計上。瀬戸内国際
芸術祭推進、新エネルギー普及・電気自動車普及、子ども子育
て支援、都市イメージの向上とにぎわいづくり、地域を支える
産業振興。⑥NPO奥塩江交流ボランティア協会（大西祐二代
表）が上西地区で茶栽培を再生事業として取り組み。

在りし日の茶畑



⑦塩江中学校建設工事敷地で室町時代の堀立て建物遺跡
発見生徒が体験調査。

⑧ふるさと会の活動として、松茸山再生を地元有志（後藤安
宏・植田康宏・稲田末広各氏ら）と連携共同した結果、見事松
茸が生え収穫。塩江の米を特産として1500kg販売支援。ふる
さと会の役員会を2ヶ月1回で開催。4月別海ふるさと会総会
参加。

特集 塩江中学創立50周年行事



ふるさと会長・塩中卒1期生 池田 克彦
前年から市及び関係者に働きかけし実現した塩江中学校創50周
年記念事業に参加しふるさと会が助成。1期生記念冊子を作成。
12月上原校長先生のご配慮で中学3年生（51期生）と1期生（後
藤徹・岡本幸江各氏）との懇談会（卒業50年何を学んだか・
ふるさとへの想い）思い出となる行事でした。会報では関係者
のご寄稿頂きましたのでご紹介申し上げます。ご寄稿感謝です。



我が母校 半世紀の輝き今日にあり



塩江中学校創立50周年記念実行
委員会委員長 高松市議会
議員 佐藤 好邦

香東川のせせらぎと、桜に囲まれた
自然美豊かな大地に雄大に建つ母校。

昨年10月23日（日）大安吉日 故郷塩江から多くの心豊
かな人材を輩出した塩江中学校の創立50周年記念式典を、
多くの皆様方のご協力により盛大に開催することができま
した。思い出せば、第1期生の卒業生の方は今や当年65
歳になられております。私の在校時（昭和42年卒業）には
約500名ほどの生徒数を数えていましたが、現在は60名程
に減少し、空き教室が多くなってきている現状であります。
しかしながら、塩江ならではの心豊かな教育が50年間通し
て生まれ、郷土愛に満ちた尊敬される卒業生を送り出し、
社会から大きく評価されているのも事実であります。今、
平成27年春開校を目指して統合小学校が中学校も含めて現
在の地に新しく建て替わるため、工事が始まっております。
国産材の活用とか、地熱を利用した床暖房やホテルの生息
できる水路など塩江の特色を活かすための配慮が計画され
ています。さて、式典当日は第1期の卒業生であられるふる
さと会・池田会長さんのご配慮により、多大なるお力添えを
賜り、式典に相応しい大きな花を咲かせていただきました。
母校をそして故郷を想うお気持ちに、甚大なる敬意を表す
次第であります。最後になりましたが、池田会長さんを初め
ふるさと会の皆様のご多幸と貴会の更なるご発展を心より
ご祈念申し上げます。合 掌

塩江中学校創立50周年記念事業



高松市立塩江中学校 校長
上原 公子
10月23日（日）、50周年記念式典を無事
終えることができましたことは、塩江中学校

卒業第一期生記念事業実行委員会、高松・塩江ふるさと
会の皆様をはじめ、多くの方々のご支援とご尽力による
ものです。また、記念のモニュメント、枝垂れ桜、木斛、
山茶花をいただき、誠にありがとうございました。さて、
今春卒業した第51期生を含めて卒業生総数が、3890名と
なりました。多くのすばらしい若者を輩出できたことは、
誠に喜ばしく塩江地区の皆様の方と絆によるものと思ひ
ます。五十年の歴史と数々の輝かしい功績を受け継ぎ、
活力ある魅力あふれる学校づくりに取り組む決意を新たに
いたしました。ふるさと塩江を慕い、愛おしく思う生徒た
ちの「心のふるさと、塩江中学校」を大切に守っていく
覚悟です。今後とも本校の発展のためにお力添えを
いただきますよう、お願い申し上げます。「ふるさと会」
の皆様方が、「なにしょんな」と訪ねてくださることを
お待ちしております。校庭の桜のつぼみも頬を薄桃色
に染め始めております。

塩江学校創立50周年記念式典を振り返って
創立50周年1期生 実行委員長・塩江世話人



小笠原 勝範
山々のみどりかけむるようなこのご
ろ、塩江は、自転車に乗って会いに行
こう。内場池コース、大滝山コースで

四季折々の味覚と名湯を楽しむことができます。さて平成
23年10月23日に行われました塩江中学校創立50周年記念
式典では、佐藤市議員はじめ地元の3地区の有志の方々のご
協力により、無事に行うことができました。式典実行委員長
式辞から始まって第1期生とふるさと会からの記念植樹目
録贈呈。塩江の知られざる文化についての津森先生の記念
講演。歴史と美しい自然に満ちたふるさと塩江を改めて知
ることができました。そして午後からは、場所をセカンド
ステージにかえての昼食会。蓮井孝雄さんの司会でスター
トしました。先ず演歌の和泉幸弘さん歌うにつれよく透き
通った高音がさえわたりました。塩江出身のシャンソン歌
手高久湯由紀子さん。うっとりする素晴らしいステージあ
りありがとうございました。2次会では久しぶりに再会した同
級生が昔に戻りワイワイガヤガヤ楽しそうでした。ふるさ
と会の皆様はじめ同窓生の皆様のご支援協力ありがとうご
ざいました。又の機会にお会いできるのを楽しみにしてい
ます。（市内塩江住）

塩江中学校創立50周年記念式典

実行委員安原世話人

後藤 安宏



昨年10月塩江中学校体育館で開催され
た節目の式典に、卒業生の一人として
参加させていただきました。これはふるさと会の池田会長
が統合中学での卒業ではないが、「第一期塩江中学校卒業生
として参加をしよう」の呼びかけで多くの卒業生が、忙しい
中遠路からも参加していただき大変良い機会であったと
感謝しております。行事の様子や卒業生名簿の整理、
参加できなかった同級生の近況報告等をまとめた
記念冊子も発行していただき配布いたしました。これに
対してのお礼の言葉も多く世話人の一人として

嬉しく思っております。50年以上の歳月と歴史を刻んだ今でも安原中学校に至っては、校門、校舎などが当時とほとんど変わらない佇まいで残っておりその時を想い偲ぶことが今でも出来ます。また、内場ダムの湖畔に佇むホテルに移った午後の部では、塩江出身のシャンソン歌手高久（旧姓別所）由紀子さんのステージがあり静かな湖畔に歌声が響き、心に欬びと感動を感じながら生歌を聞かせていただきました。再会での欬びや、歩んだ人生の事、家族や、孫の事、懐かしい思いで話等など、有意義な楽しい時間を過ごすことが出来ました。先人が築かれた良き時代の文化や風習が失われつつある今、それらが少しでも後世に引き継がれるように、これからも価値観を共有できる人たちと共に有意義な毎日が過ごせたらと願っております。（市内安原中徳住）

創立 50 周年 実行委員安原世話人



楠 明子

塩江中学校創立 50 周年記念式典の日（平成 23 年 10 月 23 日）式次第のしおりの中に現在 3 年生の女子学生の言葉がオリーブの小枝が印刷された落ちついた一筆書きに添えられていました。私たち第 1 期卒業生として、時にはずまみしいスピードで、時にはゆるやかに時間を過ぎ去り、こうして平成 23 年を迎え式典に参加できたことに感無量。校歌の流れに乗り、セピア色した 50 年前中学生の頃がだんだん鮮明にのみがえるのでした。未来への不安そして進学のこと、しおりの彼女はどんな思いで学生生活を過ごしているのだろうか？現在塩江中学校の生徒数も減り数年後は町内 3 小学校を 1 に統合し、中学校の敷地に新しく小学校が建てられる高松市の計画です。その為に中学校の運動場は工事中。なんとその地中から室町時代の遺跡が現れ皆びっくりです。その説明会が 4 月末にあります。岩部の土地に住んだ人々、そして岩部氏ゆくえなど・・・。なんだか時代の大きなうねりを感じているこの頃です。（市内安原高畑住）

心に残る平成 23 年 実行委員上西世話人



光本 信一

心配事の多い予感する年明けでした。年始から日本列島に冬将軍が居座り記録的大豪雪に見舞われ、そして 3 月 11 日誰かが経験したことがない、未曾有の東日本大震災、地震、津波、原発の事故は、世界の人々を震わせ深く沈痛な悲しみを共有しました。初夏の 5 月早々 1 号台風から影響あり、大型台風 12、15、16 号が上陸、四国を縦断し紀伊半島に上陸、湿った空気を大量に送り込み各地で 1000 ミリを超える大雨。特に 11 月 21 日奈良県の上北山では、1808.5 ミリの豪雨となり五條市では大土砂災害が発生し土砂による堰止湖など多くの被害がでました。年を通し自然災害の脅威怖さを改めて認識させられました。多くの苦難の中、内からがんばろう日本、外からがんばれ日本へのエールは委縮ムードを一変し各地で元気の出るイベントが再開、明るく元気な日々の生活が帰ってきました。昭和 21 年生まれが物資の無い貧しい生活の中、少しの物を譲りあい励ましあい助けあい、ただひたすらに頑張り自らの成長と世の発展に丸となり高度成長を成し遂げました。気が付けば初老のこの歳に塩江中学校創立 50 周年となり、塩江中学校第 1 期生として創立 50 周年記念事業に参加、人生の節目を級友と祝賀ができ、限りある余生に新たな親交の絆を確認できたことは何よりの喜びです。この事業を提案して戴きました同級生で高松・塩江ふるさと会の池田会長には、東京から度々故郷の塩江にお越し戴きこの件につき協議を重ね西、塩江、安原教場（旧中学校）の連絡窓口の事務局を設け世話人として準備を行ってまいりました。平成 23 年 10 月 23 日（日）

多くの関係者列席のもと、塩江中学校 50 周年記念式典が盛大に挙行され無事に終えることができました。短い時間でしたが、級友の再会と多くの方々と知り合えた事は塩江中学校第 1 期生だからこその思いで一杯です。遠方からのご足労に心から感謝申し上げます。何時の日か又の再会を楽しみに皆様方のご健康を何よりも願っております。次の目標は 100 周年記念に向かって 115 歳です。（市内上西住）

塩江中第 1 期生として 実行委員上西世話人



藤岡 俊博

陽春の候 古里を離れ 50 年の月日に流れと共に学び遊んだ 3 年間は、昨日のように思い出されます。このたび高松・塩江ふるさと会池田会長をはじめ多くの関係者の皆様にご尽力いただき塩江中学校創立 50 周年の記念式典に催しに、第 1 期生の一員として参加させていただき、久しぶりに再会することができ本当に有難く思っております。高松大学生涯センター津田先生のふるさと「塩江の知られざる文化」の講演をいただき、生まれ育った私でも知らないことがあり改めて望郷がつのるひと時でした。午後のセカンドステージでの記念式典では、内場池周辺の自然豊かな景色にふさわしいふるさとの歌、和泉幸弘さんの昔懐かしい歌声と日頃あまり聞けない高久由紀子さんのシャンソンに魅了楽しいひと時を過ごすことができ感激いたしました。お二人の益々のご活躍を期待いたします。懇親会では 50 年を期に私達同級生の絆をより強く持って、これからの人生を意義深く明るい未来であり続けたいと願っております。ふるさと会会員の皆様のご健勝とご多幸を心から祈念して御礼をさせていただきます。（綾歌郡綾川町住）

ふるさとに手を合せて

ふるさとの歌を

和泉 幸弘



高松・塩江ふるさと会会員の皆様お変わりございませんか。昨年はふるさと会創立 20 周年総会と塩江中学校創立 50 周年記念行事に参加させて頂き有難うございました。私はこれまで自分に馴染み

の土地の歌を取集するのが好きでレコードを集めてまいりましたが、故郷「塩江の歌」について今のうちに保存しておかなければ音源が失われてしまうのではないかと危惧を感じております。香川の作曲家「大川かつゆき先生の作品」高松市役所塩江支所長の尾形様の情報及び塩江町文化協会の早井様のお世話で初版時の音源と違っているものの 4 曲 CD に収録することができましたが、「塩江小唄」は音源喪失のためカセットテープからの収録になりました。残念な事は「合歓の湯の町」（約 50 年前、塩江町内各家に配布されたソノシート）の歌手は川崎妙子さんの初版時の音源が無かったことです。私が曲を選び CD 1 枚分別途収録しました。「塩江の歌」が編集できれば会員の皆様に聴いていただくことを希望します。現在機会があれば、自作曲「塩江慕情」「湯の町・塩江・初恋の町」を唄わせてもらい塩江のイメージアップを図ろうと努めています。高松・塩江ふるさと会員の皆様のご活躍をお祈りしています。今後とも宜しくお願いします。（市内一宮町住）

わがふるさと《しおのえ》 藤澤 保



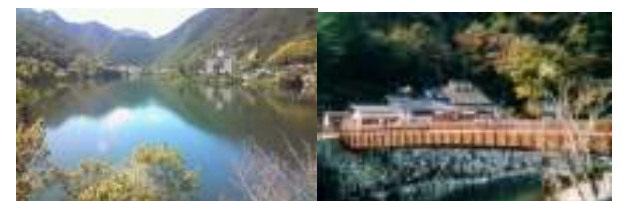
ふるさとしおのえを離れて 40 年になります。塩江ことが気になりながらも、仕事と月日が流れていつのまにか定年を迎える歳になってしまいました。自由時間が増え、やっとながふるさと塩江のことを考えできるようになりました。

塩江のために何かできることはないだろうか。何をしたらいいだろうか。友人に相談したところ「ブログに書いてみたら」と教えられ、これなら私にもできる。これを始めてみようとして昨年 8 月から塩江通いが始まりました。新しい発見ばかり、知らないことばかり、わからないことばかり、あまりにも知らなかった自分が恥ずかしく思いました。図書館へ行って調べたり、地元の方に聞いたり、塩江温泉観光協会にも聞きにいきました。塩江にはすばらしい資源、特産品、ガソリンカーの遺構など魅力がいっぱい。こんなすばらしい塩江が、わがふるさとであるということがほんとうにうれしく誇りです。ますます塩江が好きになってきます。少しでも塩江のことを知ってほしいと、私のライフワークとして塩江オンリーで書き続けていこうと思っています。塩江の里山ハイキングにも参加して山登りもしています。岳の会代表の楠さんがガイドされ、塩江のことをいろいろ詳しく話をしてくださいませ。知らないことばかり教えていただき、すごく勉強になります。それからなにかボランティアをと思っていましたら塩江温泉観光協会「マイスター」の募集があり、さっそく登録させていただきました。4 月 8 日の「塩江さくらまつり」でお手伝いすることができました。たくさんのお客さんに来ていただき忙しかつたけれど充実した一日でした。そして昨年友人の和泉幸弘さんが塩江を舞台にした歌を発表し、そこで『高松・塩江ふるさと会』会長にお会いすることができました。機関誌「かたかたどうし」を読ませていただき、20 年にもわたってふるさとしおのえについて事業活動されてきたことに感動しました。ますます過疎化の進んでいる塩江、町外でたくさんの方が頑張っておられるんですね。私も微力ですがなにか塩江のために役にたてる一員になれたらと思っています。どうぞよろしく願いいたします。（市内浅野町住）



事務局よりお知らせ

- 塩中創立 50 周年記念を本会報で特集しました。ご多忙のところご寄稿頂き有難うございました。又ふるさとに手を合せてのご寄稿に御礼を申し上げます。
- 1) 24 年度個人会費 ¥2,500 納入お願い。郵便局 扱口座記号 00150-2；口座番号 196649；加入者名（口座名）首都圏ふるさと塩江会。
 - 2) 昨年度続き ツリーハウス・松茸山再生・塩江新米販売の支援事業行います。新米申し込みはふるさと会事務局へ。
 - 3) ふるさと体験旅行を 8 月 9 月 10 月 予定。松茸狩り・塩江登山と湖畔の夕べ・瀬戸海巡は後日ご案内します。
 - 4) 合歓の湯の町・塩江慕情・湯の町塩江初恋の町の曲（和泉さん）希望の方に提供しますふるさと会事務局へ。



ふるさとの湖（内場池） 行基の湯

編集後記

昨年 3 月東日本大震災でふるさとをなくした町があります。塩江は過疎が進むと言え素晴らしい町です。産業と観光を再興しふるさとが少しでも賑えればそれだけでもいいと思います。次号は今秋発刊を予定します。（編集人 渡邊 剛至）